

# FU500-PC リンクソフトウェアマニュアル

## 1. ドライバのインストール

付属の「VCP\_DriverPDG.pdf」に従って VCP ドライバをインストールしてください。  
インストールファイルも同封しています。

## 2. FU500-PC リンクソフトウェアのインストール

「FU500\_Link.exe」ファイルを適切なフォルダに置いてください。

## 3. 初回起動時の設定

PC と FU500 を接続した状態で、FU500 の電源を投入し「FU500\_Link.exe」ファイルをダブルクリックします。

＊このアプリケーションの構成が正しくないため、アプリケーションを開始できませんでした。アプリケーションを再度インストールすることにより問題が解決する場合があります。」等のメッセージが出て起動できない場合、以下のライブラリをインストールしてください。

＊Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ

＊Microsoft .NET Framework 4.0

初回起動時にはメインメニューの「ポート設定」（図1 5 参照）をクリックして、ポート設定を行います。

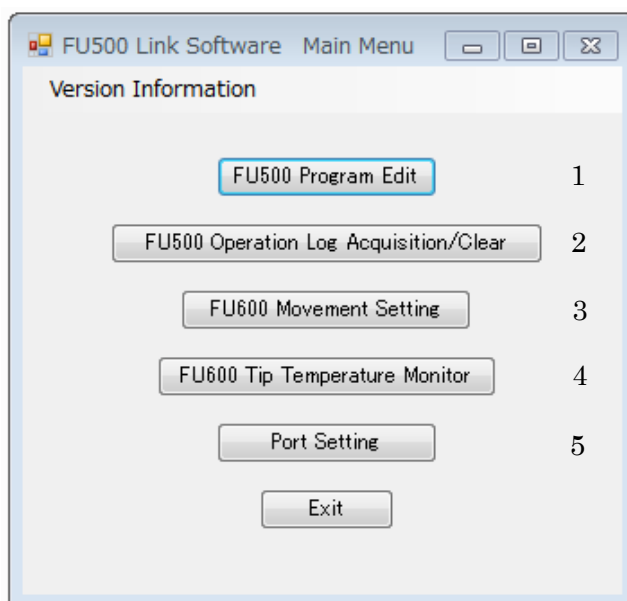


図1 メインメニュー

「ポート設定」をクリックすると図2の画面になるので、VCP ドライバで割り当てられたポート番号を入力して、「OK」をクリックしてください（exe ファイルと同じフォルダに「FU500\_Link.ini」ファイルが生成されます）。

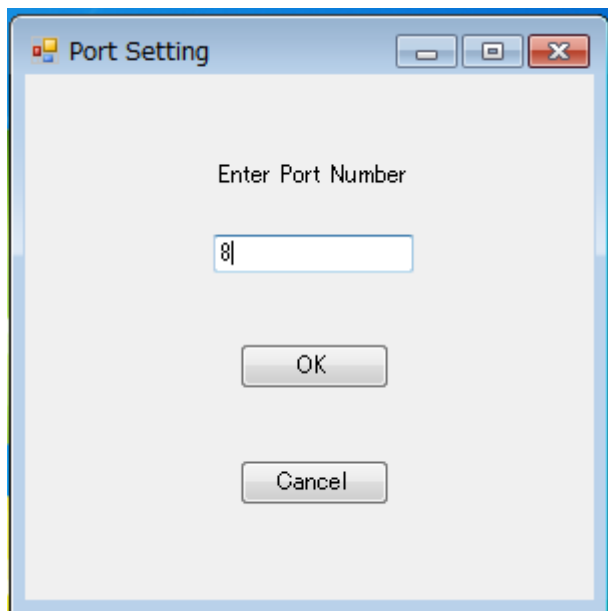


図2 ポート設定

#### 4. FU500 プログラム編集

メインメニューの「FU500 プログラム編集」（図1 1）をクリックすると図3に示すプログラム選択画面になります。

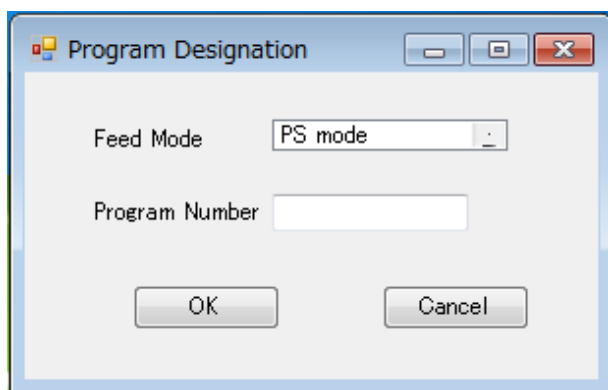


図3 FU500 プログラム選択画面

図3の画面で「フィードモード」を選択し、プログラム番号を入力して「OK」をクリックすると、図4に示すプログラムの編集画面が初期値で表示されます。

すでに保存されているファイルを読み込む等、プログラムの指定が必要ない場合は、指定せずに「OK」をクリックして先に進むことも可能です（この場合、PS モード、プログラム 0 を指定したことになる）。

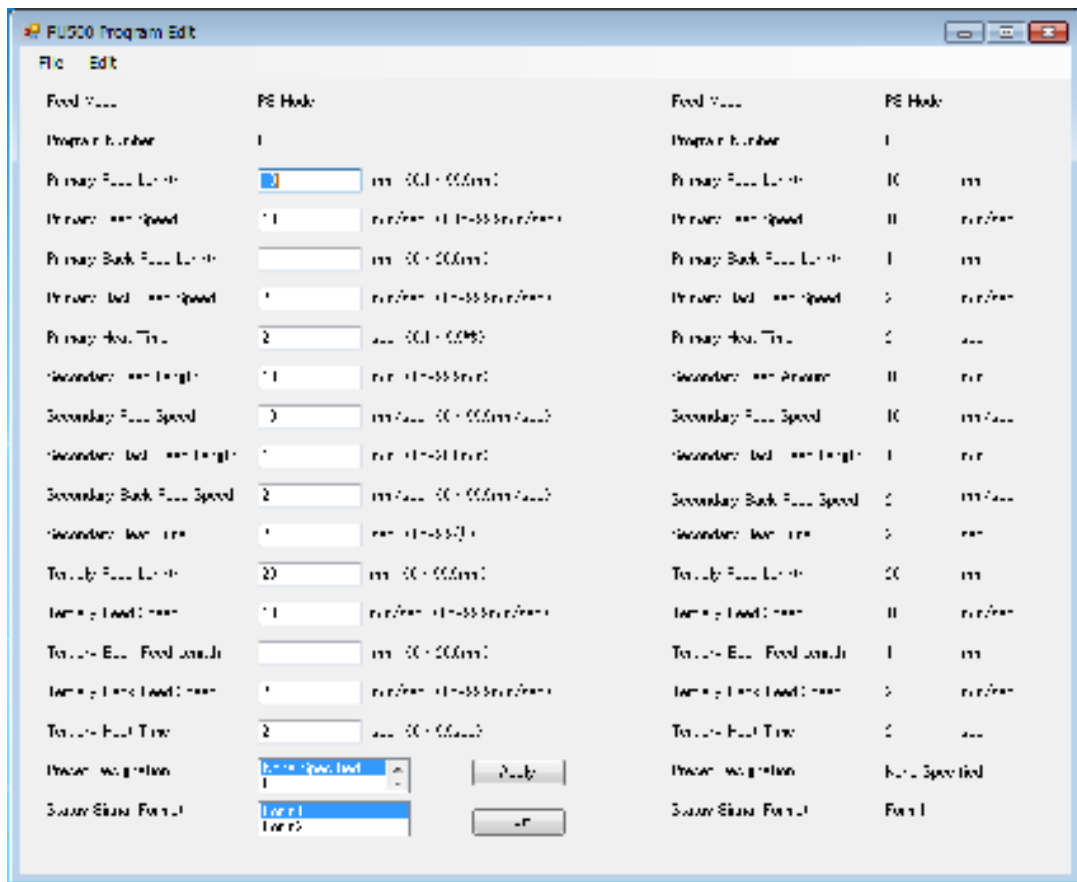


図4 FU500 プログラム編集画面

プログラム編集画面の左半分は編集用の画面、右半分は編集前のプログラムの表示になっています。プログラムの各項目を編集し、「適用」をクリックするとメモリにプログラムが取り込まれ、右面の表示が編集後の値に変化します。

#### 4-1. 編集するプログラムの変更

プログラム編集画面（図4）にて「編集」→「プログラム指定」を選択すると、プログラム選択画面が表示され、編集するプログラムを変更することができます。すでにプログラムファイルが開かれていて、該当するプログラムがファイルに存在する場合は、ファイルの内容を、それ以外は初期値が表示されます。

FU500 Program Edit

File Edit

Program Designation

Feed		Feed Mode	PS Mode
Program Number	0	Program Number	0
Primary Feed Length	10 mm (0.1~99.9mm)	Primary Feed Length	10 mm
Primary Feed Speed	10 mm/sec (0.1~99.9mm/sec)	Primary Feed Speed	10 mm/sec
Primary Back Feed Length	1 mm (0~20.0mm)	Primary Back Feed Length	1 mm
Primary Back Feed Speed	2 mm/sec (0~99.9mm/sec)	Primary Back Feed Speed	2 mm/sec
Primary Heat Time	2 sec (0.1~9.9秒)	Primary Heat Time	2 sec
Secondary Feed Length	10 mm (0~99.9mm)	Secondary Feed Amount	10 mm
Secondary Feed Speed	10 mm/sec (0~99.9mm/sec)	Secondary Feed Speed	10 mm/sec
Secondary Back Feed Length	1 mm (0~20.0mm)	Secondary Back Feed Length	1 mm
Secondary Back Feed Speed	2 mm/sec (0~99.9mm/sec)	Secondary Back Feed Speed	2 mm/sec
Secondary Heat Time	2 sec (0~9.9秒)	Secondary Heat Time	2 sec
Tertiary Feed Length	20 mm (0~99.9mm)	Tertiary Feed Length	20 mm
Tertiary Feed Speed	10 mm/sec (0~99.9mm/sec)	Tertiary Feed Speed	10 mm/sec
Tertiary Back Feed Length	1 mm (0~20.0mm)	Tertiary Back Feed Length	1 mm
Tertiary Back Feed Speed	2 mm/sec (0~99.9mm/sec)	Tertiary Back Feed Speed	2 mm/sec
Tertiary Heat Time	2 sec (0~9.9sec)	Tertiary Heat Time	2 sec
Preset Designation	None Specified 0	Preset Designation	None Specified
Status Signal Format	Form1 Form2	Status Signal Format	Form1

Apply Exit

図5 プログラム変更

Program Designation

Feed Mode PS Mode

Program Number

OK Cancel

図6 プログラム変更画面



## 4-2. FU500 プログラムのファイル保存

図4の画面にて「適用」をクリックした後、「ファイル」→「保存」を選択すると、「現在のファイルに追記」「指定したファイルに追記」「新規ファイルに保存」が選択でき、選択に従って編集中のプログラムをファイルに保存します。

ファイルは CSV 形式にて保存されます。

### (1) 現在のファイルに追記

現在すでに開いているファイル(ファイル→開くで開いたファイル)に編集中のプログラムを追記します。

ただし、ファイル内に編集中のプログラムが存在する場合は上書きします。

### (2) 指定したファイルに追記

ダイアログで指定したファイルに編集中のプログラムを追記します。

ただし、ファイル内に編集中のプログラムが存在する場合は上書きします。

### (3) 新規ファイルに保存

編集中のプログラムを新規ファイルとして保存します。

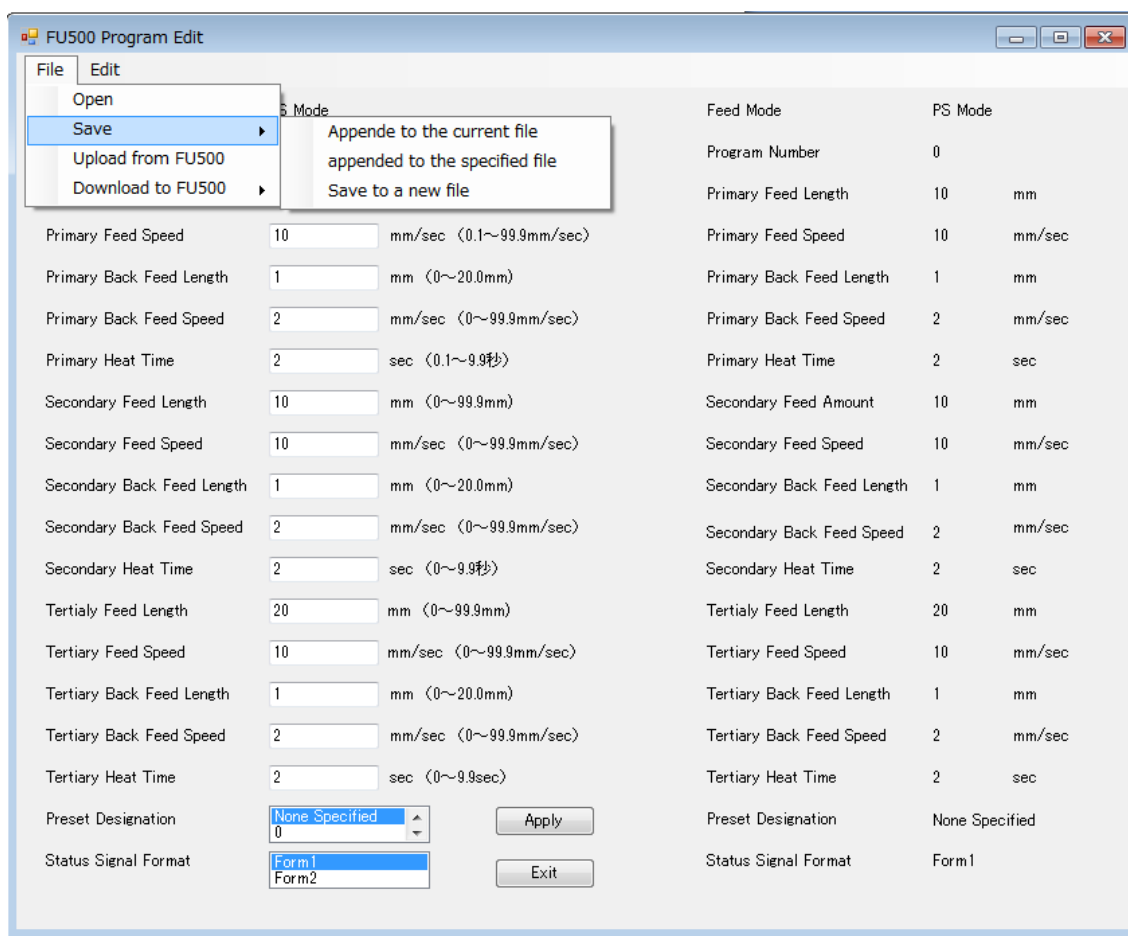


図7 FU500 プログラムファイル保存

#### 4－3．FU500 プログラムファイルを開く

図 4 の画面にて、「ファイル」→「開く」を選択して **FU500** プログラムファイルを指定すると、指定したファイルを読み込み、先頭にあるプログラムの内容を表示します。

#### 4－4．FU500 からプログラムをアップロードする

図 4 の画面にて、「ファイル」→「**FU500** から読み込み」を選択すると、現在編集中的のフィードモード、プログラム番号のプログラムを **FU500** から読み込み、画面に表示します。

#### 4－5．FU500 へプログラムをダウンロードする

図 4 の画面にて「ファイル」→「**FU500** へ書き込み」を選択すると、「読み込まれているファイルを書き込み」「ファイルを指定して書き込み」「編集中的のプログラムを書き込み」が選択でき、選択に従ってプログラムを **FU500** に書き込みます。

(1) 読み込まれているファイルを書き込み

すでに読み込まれているファイルを **FU500** に書き込みます。

編集中的のプログラムは「適用」をクリックしていれば **FU500** に書き込まれます。

(2) ファイルを指定して書き込み

ダイアログで指定したファイルの内容を **FU500** に書き込みます。

注意) 現在編集中的のプログラムは指定したファイルに保存されていなければ、書き込まれません。

(3) 編集中的のプログラムは書き込み

現在編集中的のプログラムを **FU500** を書き込みます。

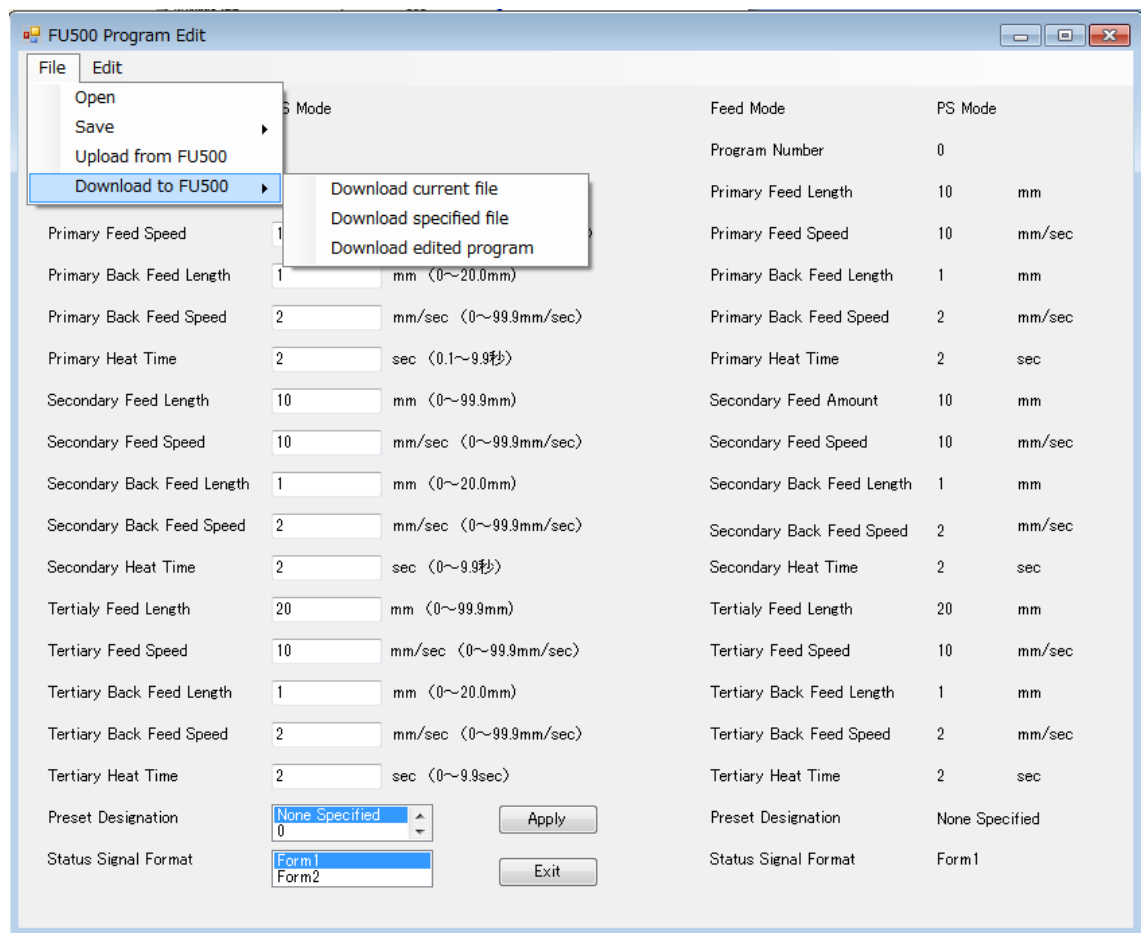


図 8 FU500 プログラムダウンロード

## 5. FU500 動作ログ取得&クリア

メインメニューの「FU500 動作ログ取得&クリア」(図 1 2) をクリックすると図 1 0 に示す画面を表示します。

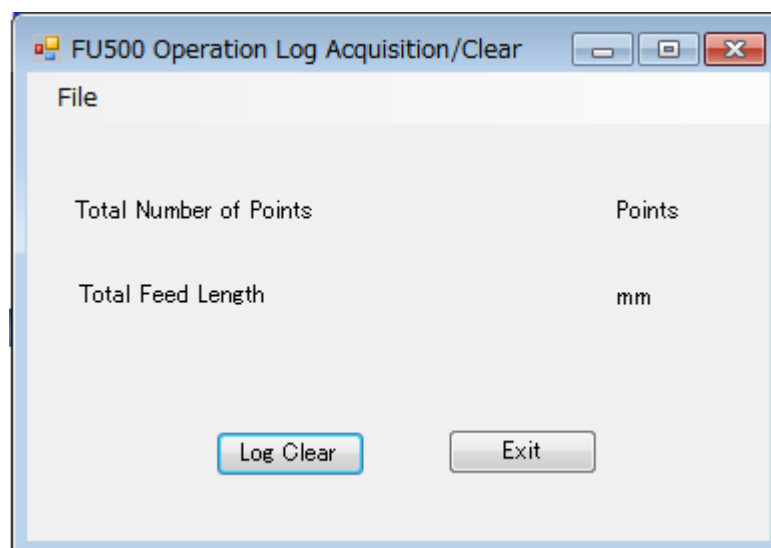


図 9 FU500 動作ログ取得&クリア画面

### 5-1. FU500 動作ログ読み込み

図 1 0 で「ファイル」→「FU500 から読み込み」を選択すると、FU500 から動作ログをダウンロードし、画面に表示します。

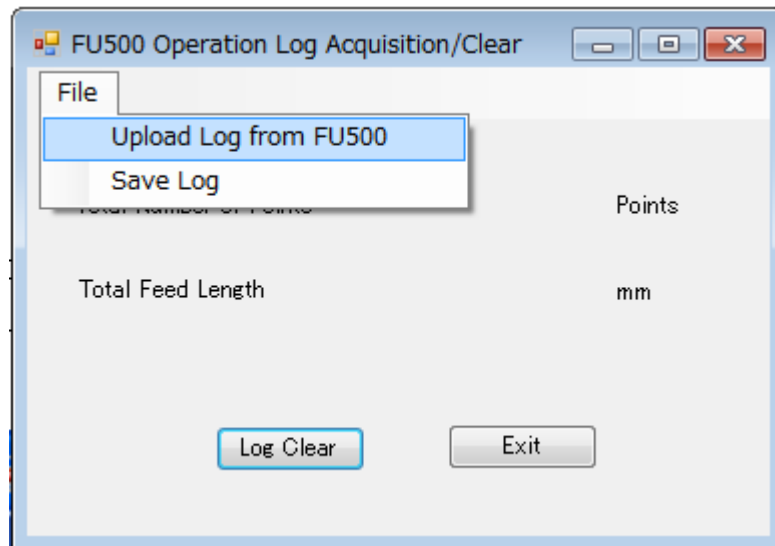


図 1 0 FU500 動作ログ読み込み

### 5-2. FU500 動作ログ保存

図 1 0 で「ファイル」→「ログ保存」を選択すると、表示中の動作ログを指定ファイルに保存します。

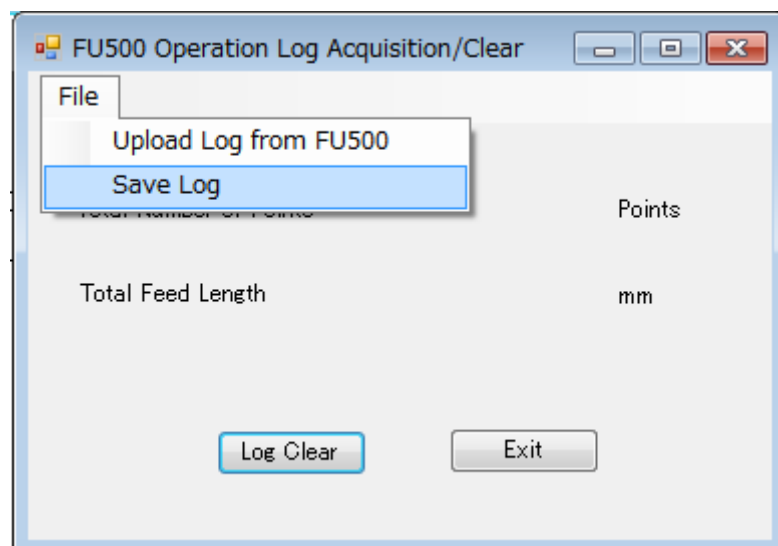


図 1 1 ログ保存

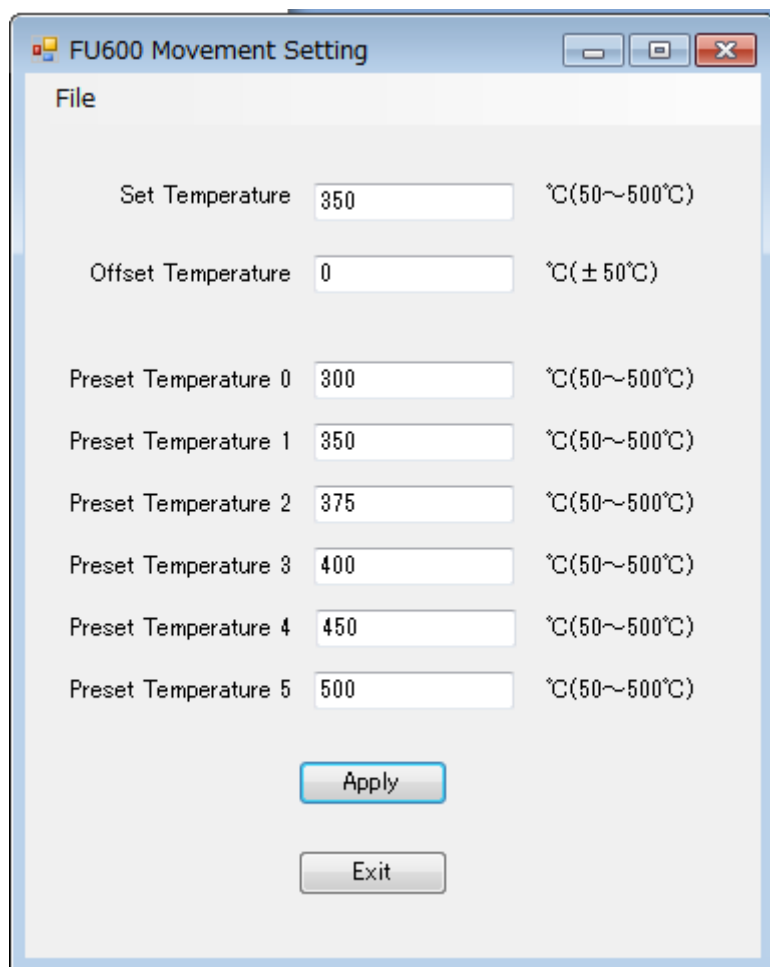
### 5-3. 動作ログクリア

図 1 0 において、「Log クリア」をクリックすると FU500 本体の動作ログをクリアしま

す。

## 6. FU600 動作設定

メインメニューの「FU600 動作設定」(図 1 3) をクリックすると図 1 3 に示す画面になる。



Parameter	Value	Unit
Set Temperature	350	°C(50~500°C)
Offset Temperature	0	°C(±50°C)
Preset Temperature 0	300	°C(50~500°C)
Preset Temperature 1	350	°C(50~500°C)
Preset Temperature 2	375	°C(50~500°C)
Preset Temperature 3	400	°C(50~500°C)
Preset Temperature 4	450	°C(50~500°C)
Preset Temperature 5	500	°C(50~500°C)

図 1 3 FU600 動作設定画面

### 6-1. FU600 設定アップロード

図 1 3 の画面で「ファイル」→「FU600 から読み込み」を選択すると FU600 から動作設定を読み込み、画面に反映します。

### 6-2. FU600 設定ダウンロード

図 1 3 の画面にて「適用」をクリックした後、「ファイル」→「FU600 へ書き込み」を選択すると FU600 に動作設定を書き込みます。

### 6-3. FU600 設定ファイル保存

図 1 3 の画面にて「適用」をクリックした後、「ファイル」→「保存」を選択し、ディレクトリ、ファイル名を指定して FU600 動作設定を CSV ファイル形式を保存します。

#### 6-4. FU600 設定ファイル読み込み

図 1 3 で「ファイル」→「開く」を選択し、ファイル選択するとファイルを読み込み、FU600 動作設定として、画面に反映します。

### 7. FU600 チップ温度モニタ

メインメニューの「FU600 チップ温度モニタ」(図 1 4) をクリックすると図 1 4 に示す画面でチップ温度を表示する。

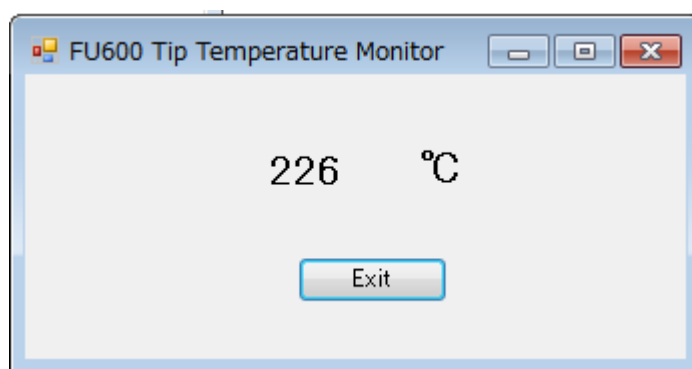


図 1 4 FU600 チップ温度モニタ

(注意)チップ温度モニタは FU500 動作中も動作可能ですが、表示は変化しません。

### 8. 動作確認環境

- 1) OS:Windows XP Professional Version 2002 Service Pack3  
CPU:Intel Core2Duo 2.93GHz 2.0G RAM
- 2) OS:Windows 7 Professional Service Pack1  
CPU:Intel Celeron CPU B840 1.90GHz 2.0G RAM

### 9. 注意事項

\*本プログラムを最初に起動したときに、「このアプリケーションの構成が正しくないため、アプリケーションを開始できませんでした。アプリケーションを再度インストールすることにより問題が解決する場合があります。」等のメッセージが出て起動できない場合、以下のライブラリをインストールしてください。

\*Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ

\*Microsoft .NET Framework 4.0

\*チップ温度モニタ以外の機能は FU500 動作中は使用できません

## 10. 改訂記録

[illegible]